

# 黄砂の実態解明に向けた取り組み

北東アジア地域では、黄砂の実態解明に向けて次のような取り組みを行っています。

## 黄砂研究

黄砂の発生・輸送は、地域気象、地勢・地質、土地利用などの要因によって異なり、そのメカニズムは現在も研究対象となっています。黄砂が環境や産業などに与える直接的な被害については比較的明らかになっていますが、地球温暖化や酸性雨との関係などについては、未解明の部分が多くあります。

このため、まず科学的なデータを蓄積することにより、現象の解明を図ることが重要となります。



砂塵の舞い上がりの観測



気球による上空のエアロゾル観測



ハイボリウムサンプラーによるエアロゾルの捕集



ろ紙に捕集された黄砂

## 黄砂実態解明調査

日本に飛来した黄砂の実態を解明するため、黄砂現象観測時に、国内の多地点で一斉にエアロゾル(大気中に浮遊している固体または液体の微細な粒子)を捕集し、捕集したエアロゾルの粒径分布や成分の分析を行うことにより、黄砂エアロゾルの飛来量、及び物理的・化学的な性質を把握しています。

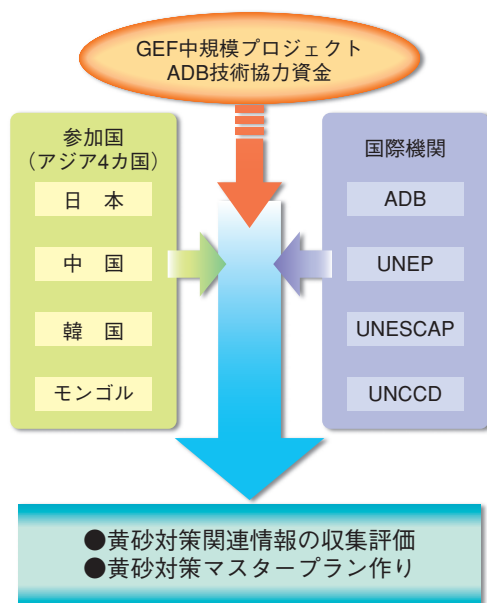
■黄砂サンプリング地点

## ADB/GEF黄砂対策プロジェクト

黄砂は、国境をまたぐ環境問題であることから、効果的な調査・対策を実施するために関係各国の協力が重要です。特に、黄砂発生源地域は日本国内ではないため、発生源情報の収集や対策の実施に関しては、国際連携による共同作業が不可欠です。

このため、2003年1月より地球環境ファシリティ(GEF)における予備的調査の一つとして、国連環境計画(UNEP)、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、国連砂漠化対処条約事務局(UNCCD)、アジア開発銀行(ADB)の4国際機関と日本、中国、韓国、モンゴルの4カ国により共同プロジェクト(ADB/GEF黄砂対策プロジェクト)が実施されました。

このプロジェクトでは、北東アジアにおける黄砂のモニタリング・早期警報ネットワークの確立に向けた段階的なプログラムと、黄砂発生源における対策技術及び投資戦略に関するマスタープランが作成されています。



ADB/GEF黄砂対策プロジェクト報告書